

消化器外科 I に、過去に通院・入院された患者さんまたはご家族の方へ (臨床研究に関する情報)

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、研究用に保管された検体を用いて行います。このような研究は、厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」（平成 26 年文部科学省・厚生労働省告示第 3 号）の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の問い合わせ先へご照会ください。

[研究課題名] 転移性大腸癌における原発巣切除による免疫状態変化と予後に関する検討

[研究機関名・長の氏名] 北海道大学病院 秋田 弘俊

[研究責任者名・所属] 北海道大学病院消化器外科 I 市川 伸樹

[研究の目的]

転移性大腸癌における原発巣切除による免疫状態変化と予後与える影響を検討するため。

[研究の方法]

○対象となる患者さん

2010 年 1 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日までの間に切除不能転移性大腸癌に対する初回加療を行ったかたの中で、なんらかの化学療法と原発巣切除を施行された方で、転移巣の切除を行っていない方

○利用する検体・カルテ情報

検体：摘出大腸組織、術前採取血清（保管にご同意を頂いたかた）

（炎症性サイトカイン、ケモカイン（TNF- α 、IL-6、MCP-1、MIP-2）骨髄由来抑制細胞のマーカーAlsinase1、アルギニン、オルニチン、尿素、組織 HE 染色、免疫染色(CD3、CD4、CD8、FOXP3、CD163、CD68))

カルテ情報：年齢、性別、腫瘍部位、治療前血液検査データ、K-RAS 変異有無、組織型、術前進行度、化学療法レジメンの種類期間、レジメン数、末梢血中リンパ球/単球比 (LMR)、初回治療からの生存期間、合併症の有無

・ 本院で過去に実施した先行研究「切除不能転移性大腸癌における原発巣切除の意義に関する探索的臨床研究」の対象であった方は、先行研究のデータも使用させていただく可能性があります。

・ 検体は測定のため株式会社モルフォテクノロジーに直接受け渡します。

[研究実施期間] 実施許可日～2021年3月31日

この研究について、研究計画や関係する資料、ご自身に関する情報をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する患者さんの情報に関しては、お名前、住所など、患者さん個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる情報は削除して利用いたします。

*上記の研究に検体・情報を利用することをご了解いただけない場合は以下にご連絡ください。

[連絡先・相談窓口]

北海道札幌市北 15 条西 7 丁目

消化器外科 I 医局 011-706-5927 (直通)

同 病棟 011-706-5791 (直通)

同 外来 011-706-5758 (直通)

担当医師: 市川 伸樹